

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年五月度 入選句（投稿総数二千九十五句・一般投句数五百九十八句）

特選 雲の峰水を求めて街をゆく 選者 度会 さち子

雲の峰水を求めて街をゆく 多治見市 嶋中 清徳

夏が近づくと水や水辺が恋しくなる。作者は水都大垣を初めて訪れられたか。「求める」のは、飲料水というよりも大垣の水の風景ではなからうか。あちこちの噴井か、滔々流れる鯉の泳ぐ水門川か。入道雲のたちのぼる青空の下、汗を拭きながら地図を片手に、水の都という大垣をじっくりみていこうという、作者の後ろ姿が見えてくる。

夏近し水門川の笹の舟 三重県鈴鹿市 松井 政典

水門川にをふとみると、笹舟が流れていく。小さな一枚の笹の葉で作る舟。今の子どもたちは、笹舟を作ることがあるだろうか。竹藪も昔に比べると少なくなつた。子どもも幼い頃には、まだ笹舟を作つて盥に浮かべたり、川に流したりという遊びがあつた。作者もまた、流れていく笹舟に、そんな情景がよぎつたのだろうか。あるいは流れていく小さな笹舟に、ふと、この世の生が重なつたのかもしれない。

清明や目覚めて水のほの甘し 東京都世田谷区 関戸 信治

清明は二十四節季の五番目で、四月五日頃。一般にはなじみの少ない季語である。もとは中国における清明節。祖先の墓を参り、草むしりをして墓を掃除する日であり、「掃墓節」とも呼ばれるという。万物が清が清がしく明るく美しい時期でもある。そんな日の朝の、起き抜けの、コップ一杯の水は、たしかにほの甘いだろう。季語の斡旋がうまい。

秀逸

囀りが甍をこぼれ一夜城 茨城県水戸市 岡崎 桂子

ブーメラン春を回して飛びゆけり 大垣市 新町 恵子

青麦のそよぎ初めたる朝の風 安八郡神戸町 高橋 泰

著莪の花まだ明けやらむ藪の中 大垣市 岡田 あや子

看護師と話し採血ひな祭り 愛知県額田郡 平松 京師

桜舞ふ句碑に芭蕉の声のして 愛知県西尾市 藤原 寛

やぐら窓若葉の息の吹き込みぬ 大阪府河内長野市 池田 えり子

風となるぶらんこ高く漕ぐたびに 神奈川県横浜市 龍野 ひろし

雨上がり半分青い初夏の空 岐阜市 野中 賢司

母の死のとのひてゆく桜かな 長野県下伊那郡 長沼 まさし

入選

結びの地桜しべふる投句台
よく滑る城のスリッパ花三分
天守まで花びらとどく曇空
伊吹みて長良川見て春耕す
花は葉に校歌の練習組まれけり
青葉して一木一枝漲れる
キツチンの蠅一匹に手をとられ
新緑に明るき雨や舟場跡
鉄塔を登る工事夫揚ひぼり
廃屋を駆け登りたる藤の花

栃木県那須塩原市 鈴木 文子
各務原市 星河 ひかる
大垣市 佐久間 ひろみ
大阪府高槻市 くぼ えみ
千葉県印旛郡 寺嶋 和江
大垣市 伊藤 有紀
大垣市 長澤 和子
埼玉県さいたま市 森 俊彦
大垣市 佐竹 余史美
福井県敦賀市 山田 美千代

入選

大粒の雨に散りけり蝌蚪の群
萍や残されてゐる釣道具
薄暑光酒蔵の奥賑やかに
雲迅しひかり集めて谷辛夷
新緑の光集めてたらい舟
春愁やネクタイ少しゆがみをり
黒色のこれが今年の花衣
猫の背を撫でれば春の暖かさ
春泥や乾く暇なき小さき靴
筍の土のぬくみを落しけり

大垣市 村田 通夫
大垣市 秋山 くに子
大垣市 中山 あや子
大垣市 臼井 秀子
三重県四日市市 服部 邦子
大垣市 高木 歌佐
三重県津市 村山 好昭
福岡県田川郡 成松 義紀
不破郡垂井町 高木 巧み
愛知県西尾市 金子 恵美

選者吟

うしろより雨の匂ひの夏つばめ

さち子